

「雑草魂」第 28 号

2020.11.25(水) 編集責任者：橋山 直記

実力テストのやり直しをしよう ～理科編

理科のテストは、得意分野から解き、確実に点数をとろう！

今回は実力テストの理科のテストの分析を行う。まず、公立入試問題の出題傾向について確認する。理科のテストは大問①～⑧までの8つで構成されている。生物、化学、地学、物理の各領域から2つずつ、各領域15点ずつと均等に出题されている。実験、観察を中心に、器具の操作に関する問題や、結果を分析したり日常生活の事象との関連を考えたりする、科学的な思考力や表現力を問う問題が多く出題されている。また、語句や化学式、文章記述、作図など、記述式問題の出題の割合が大きくなっている。解答の仕方は約20%が選択式問題、約80%が記述式問題となっており、実験、観察の結果をもとに考察する問題が多く出題されている。また、計算問題は複数の表やグラフから数値を読みとって計算する思考的な問題が出題されている。そこでまず、4領域とも配点は変わらないので、自分の得意領域を2つ決めて、そこを徹底的に勉強し、確実に点数をとるように心がけよう。また、地震、天気、天体などの分野は3年間で学習する内容はそんなに多くないので、比較的勉強しやすく重要語句も覚えやすいので、冬休みが終わるまでに必ず学習しておこう。

テストの解答から

テストの問題を見てみると、どの教科もそうだが、私が受験した15年前より問題量が増えてつもなく多くなっている。しかし、模範解答を見ると、記述問題は別として、語句を答える問題は昔とそう変わらないように感じた。下の表は、語句の問題と本校の正答率である。

問題番号	模範解答	本校正答率
① 問1	うずまき管	%
② 問2	花粉管	%
② 問3(1)	胚	%
④ 問2	質量保存の法則	%
⑤ 問1	主要動	%
⑥ 問1(1)	偏西風	%
⑥ 問2(1)	小笠原気団	%
⑧ 問4	自由落下運動	%

これらの解答は、昔から変わらず学習しており、必ず覚えておかなければならなかった覚えがある。これらの合計点は13点である。ここで、点数をとることができなければ、残りは選択問題、計算問題、記述問題になるので、理科の点数の向上はありえない。もう一度勉強の仕方を見直し、効果のある学習に切り替えよう。

対策

①基本事項をおさえる！

ただ暗記するのではなく、その意味を理解すること！

②自分の言葉で書く練習をする！！

教科書の表現を参考に自分の言葉で的確に説明できるよう、繰り返し練習すること！！